

2022. 8. 8

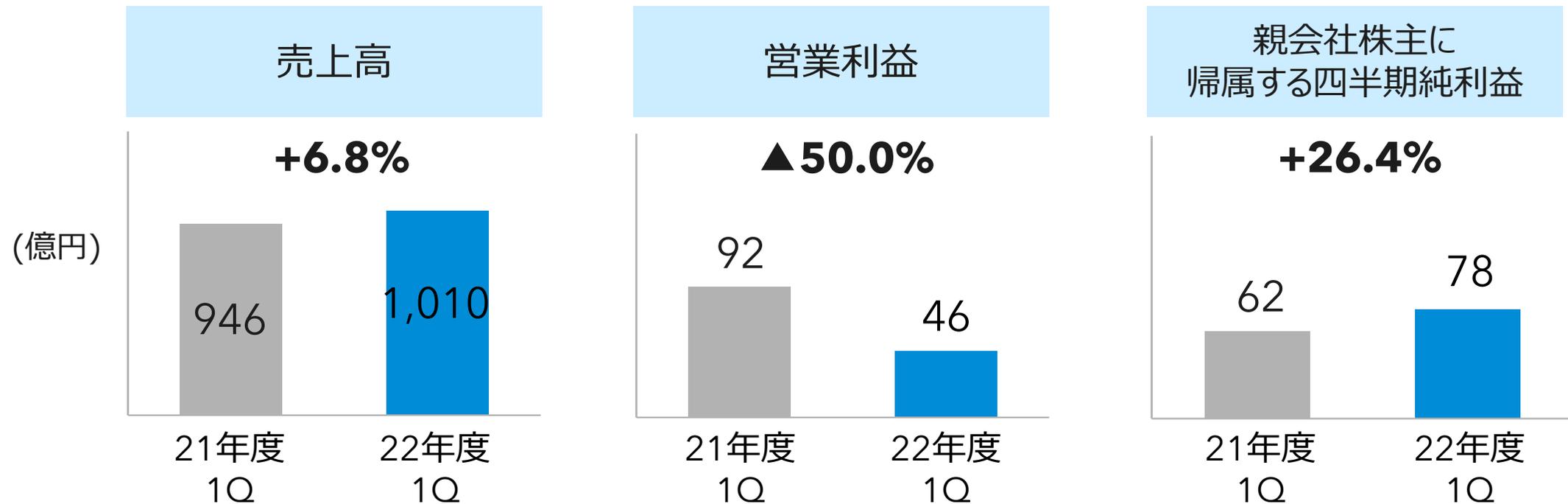
2022年度 第1四半期 決算説明

東洋紡株式会社

第1四半期実績

フィルムは販売を伸ばすも、原燃料価格高騰の影響を受け、増収減益。

営業利益 46 億円（50.0%減）も、四半期純利益は、特益により 78 億円（26.4%増）



2023年3月期通期予想

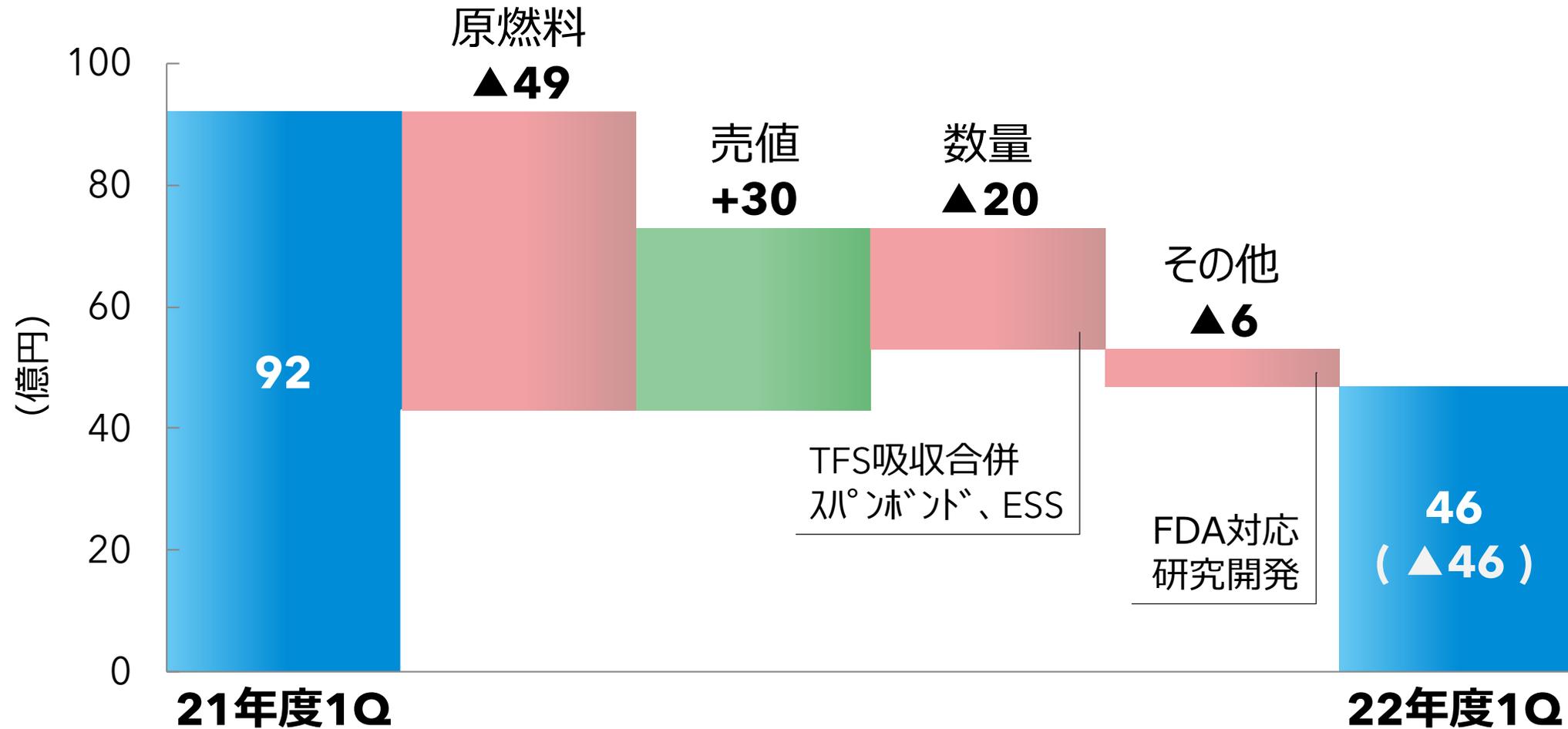
フィルムの増産効果、PCR検査需要増を見込むも、原燃料価格の高止まり、自動車減産の長期化の影響を踏まえ、営業利益 240 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

(億円)

	21年度 1Q	22年度 1Q	増減	
			金額	率
売上高	946	1,010	+64	+6.8%
営業利益	92	46	▲ 46	▲ 50.0%
(率)	9.8%	4.6%	-	-
経常利益	75	43	▲ 31	▲ 42.0%
特別損益	▲ 5	65	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	62	78	+16	+26.4%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	143	95	▲ 48	▲ 33.7%
EPS (円)	69.5	87.7	-	-
減価償却費	50	48	▲ 2	▲ 3.6%
設備投資	73	90	+17	+23.5%

■ 特別利益：うち、火災事故の受取保険金 56 億円

営業利益の増減要因



	21年度 1Q	22年度 1Q
為替レート (円/US\$)	110	130
国産ナフサ (千円/kl)	48	86

		(B)	(A)	(億円)
	21/3末	22/3末	22/6末	増減(A)-(B)
総資産	4,912	5,178	5,336	+158
現預金	347	272	325	+53
棚卸資産	763	960	1,038	+77
有形固定資産	2,246	2,276	2,321	+45
純資産	1,886	1,971	2,044	+73
自己資本	1,857	1,949	2,021	+72
うち利益剰余金	644	747	789	+42
非支配株主持分	29	23	23	+1
有利子負債	1,870	1,912	1,987	+75
D/E レシオ	1.01	0.98	0.98	-
Net Debt / EBITDA倍率*	3.3	3.4	4.4	-

* (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

(億円)

	売上高		営業利益		
	21年度 1Q	22年度 1Q	21年度 1Q	22年度 1Q	増減
フィルム・機能マテリアル	457	453	68	35	▲ 33
モビリティ	111	118	▲ 5	▲ 8	▲ 3
生活・環境	277	321	15	3	▲ 12
ライフサイエンス	75	87	19	21	+3
不動産・その他	26	31	4	3	▲ 0
消去・全社	-	-	▲ 8	▲ 9	▲ 1
合計	946	1,010	92	46	▲ 46

	21年度	22年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	457	453	▲ 4	▲ 0.9%
営業利益	68	35	▲ 33	▲ 48.3%
(率)	14.9%	7.8%	-	-

(億円)

包装用フィルム

- 出荷堅調も、原料高に対し製品価格の改定にタイムラグあり。2 Q以降スプレッド改善へ

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、新ライン（3号機）の生産性を高め、約 15% 増収。
ただし、原料高の影響を受ける

機能マテリアル

- 工業用接着剤“バイロン”は、中国のゼロコロナ政策（ロックダウン）の影響を受ける

	21年度	22年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	111	118	+7	+6.8%
営業利益	▲ 5	▲ 8	▲ 3	-
(率)	-	-	-	-

(億円)

エンジニアリングプラスチック

- 国内・海外ともに、自動車減産に加えて、原料高の影響を受け、苦戦

エアバッグ用基布

- 原料高により悪化したスプレッドの改善が遅れる

	21年度	22年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	277	321	+44	+15.8%
営業利益	15	3	▲ 12	▲ 81.5%
(率)	5.4%	0.9%	-	-

(億円)

環境ソリューション

- 世界的なEV化に伴うリチウムイオン電池（LIB）の需要拡大を受けて、LIBセパレーター工場向けのVOC処理装置、交換エレメントは、販売が回復

不織布マテリアル

- 長繊維不織布スパンボンドは、自動車減産、原料高の影響を受け、苦戦
- ポリエステル短繊維は、衛材用途の販売は堅調も、原料高の影響を受ける

高機能ファイバー

- “ザイロン”は、自転車タイヤ用途の販売が堅調

	21年度	22年度	増減	
	1Q	1Q	金額	率
売上高	75	87	+12	+16.2%
営業利益	19	21	+3	+14.7%
(率)	24.9%	24.6%	-	-

(億円)

バイオ

- 新型コロナの感染拡大が落ち着き、PCR検査用試薬の販売は減少も、診断薬用原料酵素、遺伝子検査用試薬の原料酵素の販売が拡大

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜、ウイルス除去膜の販売は堅調

医薬

- 医薬品製造受託は、FDA対応の費用、および稼働率低下により、苦戦

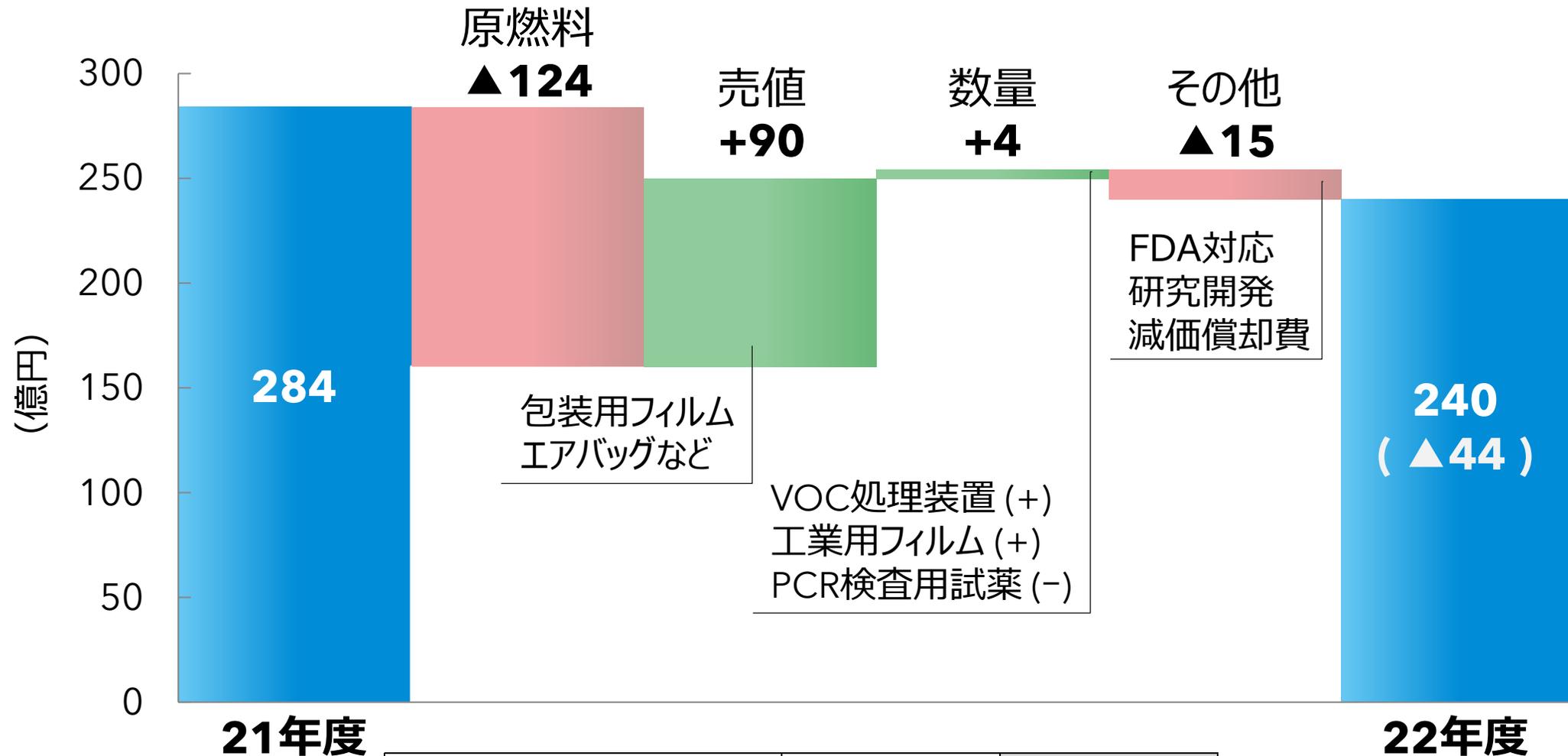
2022年度 業績見通し

フィルムの増産効果、PCR検査需要増を見込むも、原燃料価格の高止まり、自動車減産の長期化の影響を踏まえ、営業利益 240 億円、当期利益 130 億円の予想を据え置く

(億円)

	21年度	22年度	増減	
	実績	見通し	金額	率
売上高	3,757	4,100	+343	+9.1%
営業利益	284	240	▲ 44	▲ 15.6%
(率)	7.6%	5.9%	-	-
経常利益	231	180	▲ 51	▲ 22.1%
特別損益	▲ 83	6	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	129	130	+1	+1.0%
EBITDA	485	450	▲ 35	▲ 7.2%
EPS (円)	144.8	146.3	-	-
減価償却費	201	210	+9	+4.6%
設備投資	336	380	+44	+13.0%

営業利益の増減要因



	21年度	22年度
為替レート (円/US\$)	112	132
国産ナフサ (千円/kl)	57	78

直近予想
(22/5)

125

84

セグメント別見通し

TOYOTO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (22/5)
	21年度 実績	22年度 見通し	21年度 実績	22年度 見通し	増減	
フィルム・機能マテリアル	1,703	1,860	199	185	▲14	190
モビリティ	447	530	▲18	▲23	▲5	▲16
生活・環境	1,143	1,250	35	30	▲5	30
ライフサイエンス	350	350	87	67	▲20	55
不動産・その他	114	110	22	21	▲1	21
消去・全社	-	-	▲40	▲40	+0	▲40
合計	3,757	4,100	284	240	▲44	240

補足

(億円)

売上高	21年度					22年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム・機能マテリアル	457	402	414	430	1,703	453
モビリティ	111	105	106	126	447	118
生活・環境	277	270	277	319	1,143	321
ライフサイエンス	75	89	82	104	350	87
不動産・その他	26	27	28	33	114	31
消去・全社	-	-	-	-	-	-
合計	946	892	907	1,012	3,757	1,010

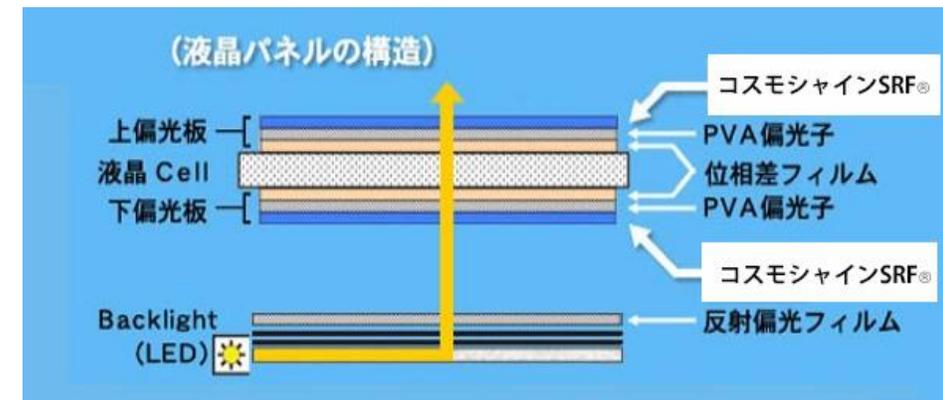
営業利益	21年度					22年度
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
フィルム・機能マテリアル	68	54	43	33	199	35
モビリティ	▲ 5	▲ 4	▲ 6	▲ 3	▲ 18	▲ 8
生活・環境	15	4	8	8	35	3
ライフサイエンス	19	28	18	23	87	21
不動産・その他	4	7	5	6	22	3
消去・全社	▲ 8	▲ 10	▲ 11	▲ 11	▲ 40	▲ 9
合計	92	79	58	55	284	46

液晶偏光子保護フィルム “コスモシャインSRF”

超複屈折ポリエステルフィルム

延伸フィルムでありながら、複屈折による着色（虹むら）を解消

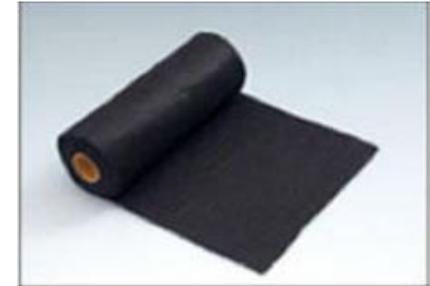
- 主な用途：液晶TVの偏光子保護フィルム
- 強み：
 - ・低吸湿性のため、ハンドリング性に優れる（優れた寸法安定性、低い反り性）
⇒液晶TVの大型化、ベゼルレス化、パネルのオープンセル化に、強みを発揮
 - ・ポリエステル、熔融製膜のため、価格競争力がある
- 競合素材：TAC、アクリル（PMMA） ※ポリエステルは、当社のみ
- 顧客：海外の偏光板メーカー
- 販売：2013年度から、販売開始
2021年度は、2017年度比 約 3 倍の売上高に成長
- 増産対応：2号機（2017年度）、3号機（2020年度）
- シェア：約 50 %



VOC処理装置

“Kフィルター”を内蔵した VOC回収装置（吸着回収式）など

“Kフィルター”とは、1974 年に当社が世界で初めて工業化に成功した、独自の活性炭素繊維



“Kフィルター”

- 用途：工場からの排気ガス・排水中の VOC処理（溶剤回収）
- 強み：吸脱着速度が速く、溶剤の熱分解を抑え、高効率・高品位の溶剤回収が可能
特に、塩化メチレンなど塩素系溶剤の処理に優れる
- 顧客：LIBセパレーター(LIBS)、TACフィルム、印刷、化学、製薬、自動車、食品などのメーカー
※国内外で1,300台以上の採用実績
- シェア：吸着回収式でトップ
VOC処理装置市場のうち、吸着回収式 20～30%（主流は燃焼処理）
- 市場：世界的なEV化や再生可能エネルギーの普及により、LIB需要は急増
- 販売計画：2025 年度に、2021年度比 約 2 倍



VOC回収装置

新型コロナウイルス検出キット

- 強み：
 - ・高速増幅、コピーが正確、夾雑物に対して高耐性のPCR酵素使用
 - ・特殊酵素等により、検体（咽頭ぬぐい液、唾液）の不純物除去作業を省き、遺伝子抽出工程を短縮。
最短 60 分以内で、新型コロナウイルスの検査が可能
- 顧客：民間センター、病院等
- シェア：約 15 %（当社推定値） 国内トップ 3



新型コロナウイルス検出キット

全自動遺伝子解析装置 “GENECUBE”

- 強み：
 - ・試薬の混合から遺伝子の増幅・検出まで、最短約 30 分で検査が可能
 - ・診断薬～機器システムまで一貫開発。原料酵素も自社調達
 - ・最大 24 テスト、4 項目 同時測定可能
- 顧客：大手検査センター、主要病院等



診断薬



“GENECUBE”（モデルC）

- 遺伝子検査用の原料酵素、試薬、診断薬、診断装置まで展開
感染症診断のソリューションビジネスの拡大へ

世界的な 4つの ESG 指数の構成銘柄に継続選定

- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI ジャパン ESG セレクト・リーダーズ指数
- MSCI 日本株女性活躍指数 (WIN)



FTSE Blossom
Japan



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2022 CONSTITUENT MSCI ジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

2022 CONSTITUENT MSCI 日本株
女性活躍指数 (WIN)

「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄にも選定

⇒ **GPIF が採用する日本株の 5つの ESG指数すべての構成銘柄に選定**

アナリスト・機関投資家向け 事業説明会（予定）

➤ **ライフサイエンス事業 9月16日（金）**

➤ **フィルム事業 9月29日（木）**

後日、当社ホームページ「株主・投資家情報」にて、

説明資料、説明資料スクリプト付き、説明会QA要旨（日・英）を掲載予定

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons